

土木学会四国支部「土木紀行」No.70

勝浦郡勝浦町生名谷川

徳島県勝浦郡勝浦町には、鮎釣りなどでも有名な勝浦川が流れている。今回は、勝浦川の支流、生名谷川を取り上げたい。

生名谷川は、二十番札所である鶴林寺の上り口あたりを流れている。

約1kmの距離にわたって、両岸に300本ものソメイヨシノやしだれ桜が植えられており、徳島県内でも有数の桜の名所として、春には観光客で賑わう場所となっている。ここではちょうど「道の駅ひなの里かつうら」の裏あたりのため、車をとめて散策するにはもってこいの場所である（写真1）。

この魅力は、単に桜がきれいということだけではない。毎年4月には盛大な「勝浦さくら祭り」が住民の手によって開催されている（写真2）。田植え前の田んぼの中につくられたステージでのイベント、要らなくなった舟をもらってきてよみがえらせた舟での川下り（写真3）、手作り人力車の貸し出し、手作り列車による周遊、かつての農業用レールを利用したトロッコ列車の試乗体験、たまねぎ

の収穫体験、釣り体験、菜の花狩り、タマネギ狩り、地元のおばちゃんたちの手作りうどん…そのほか、地元の人たちの熱意の伝わってくる心暖まる出し物であふれているのだ。

それだけではない。なんとライトアップまでを行い、夜桜まで楽しめるようにしているのだ。

これらはすべて、地元の方々でつくる「生名ロマンの会」が企画、実行している。彼らに話をうかがってみると、地域へのなみなみならぬ愛情を感じる。そして、この愛情の要因のひとつに、どうやらこの桜並木の歴史が関係しているようである。

この生名谷川は、かつて川幅が狭くて氾濫しやすい状況であった。そのため、今から約30年前に拡幅した上で河道を付け替えた。その際、地元の方々が「将来のために」と桜の苗木を自分たちの



写真1 道の駅裏手からの眺め



写真2 勝浦さくら祭りの様子

手で植えたのだそうである。それらの木が生長し、現在のような立派な桜並木となっているのである。

生名ロマンの会のメンバーは、多くが定年退職後の方々だそうだ。働き盛りの頃には地域の魅力づくりまでなかなか手が回らなかったが、定年後、生活に時間的余裕が出来たときに「先人が自分たちのために残してくれた財産を放ってはおけない」と一念発起し、現在のようなイベントを始めたそうである。

桜のみならず、桜に込められた地域への思いそのものが受け継がれていると言えよう。

あじさいの名所にしたい、ホタルの名所にしたい、子供たちが遊べる川に・・・など、さらなる展開への構想も尽きない。

生名谷川を核とした地域活性化はまだ緒に就いたばかり。今後の展開が楽しみである。



写真3 川下り



写真4 夏の生名谷川

執筆：徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 助教 真田純子

土木学会四国支部「土木紀行」 <http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>